

毎年2月の日曜日に、知り合いの農家で味噌造りをしている。野外で薪をくべて、朝から大釜で大豆を煮る。昼頃に耳だぶぐらいの軟らかさになった大豆を、臼と杵で潰す。潰した大豆に米麴と塩とを混ぜて、瓶に仕込む。常連の他に、新しい人も来る。作業をしながら、駄弁る。日常とは違う、特別な一日を過ごすことができる。里の文明(里山・里海と共生する人類の生活)での日常を体感する。

今年の中2の娘は来られなかったが、小4と3歳の息子は連れて来た。小4の息子は午前には、普段はできない薪割りをし、皆での昼食では、持ち寄られたオカズをガツガツと元気に食べていた。ところが昼食後、外での作業に出て来ないで、室内でマンガを読んでいる様子だった。

今年作業が早く済み、3時過ぎに室内でオヤツとなった。そこで息子が不調だという話を連れ合いから聞いた。気持ち悪く、頭がフラフラす

ると言う。早く帰りたいと言うので、オヤツが済むとすぐに車で帰途に着いた。家に帰ってから様子を診た。邪気(異常なエネルギー)はお腹にあって、やや実(発散)していて、胸にはない。背中を診ても、邪気は真ん中から下で実している。いわゆるカゼではない。

つらそうな感じで、そっとしておいて欲しい様子なので、とりあえず、背の実の部分で瀉す(邪気を払う)ために、トントンと叩いた。すると程なくして、吐き気を催し、トイレに吐き

に行った。吐いて少し楽になったので、今度は鍼かざして治療した。

お腹と背中の実部分から邪気を丁寧に瀉す(除く)。そして全体の〈気〉の流れを良くした。すると便意を催し、トイレに行った。硬い便が多くはないが出たと言う。更にそれで楽になったと言うが、夕食は少ししか食べなかった。便通があったとはいえ、まだ少なく、お腹にはまだ邪気を感じた。

話を聞くと、昨日から便通がないと言う。昨日

(土曜)午前にはバレーボールの校外クラブがあって、その後の昼食は特別に息子のリクエストに応じている。息子はいつもの様にラーメンをリクエストし、2人前以上を食べていた。

味噌造りの翌朝、便意はなく、十分回復していない様子であったので、調胃承気湯という急性虚状に使う下剤的漢方薬を飲ませて、車で小学校に送っていった。学校では恥ずかしがらず、便意があったら、トイレに行くように言っておいた。

学校からの連絡があるかもしれないと心配したが、最後まで授業を受けて元気に帰って来た。聞くと、学校で泥の様な便が出たと言う。その後、完全に回復したようである。

息子の病態はこう想像できた。お腹の消化力以上のラーメンを食べ、不消化の状態です腸に滞留した。それが邪気を発する毒と化していつて、終には今回の事態に及んだのだろう。その毒が便として完全に出てしまつて、回復したわけである。(2013年3月啓塾)

